

令和8年度 公営競技局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 公営競技局X方針について

(1) 課題数 全2件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	2件	—	—
政策分野	公営競技	—	—

Aレベル : 行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル : 政策的な変革課題 (Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2) 課題・取組内容等

・課題A (1) 売上向上による市財政への貢献 (資料1のP3)

○本市財政(一般会計)への貢献を安定的に継続していくため、常に売上向上を意識した取組が必要である。

○そのため、R8年度については、以下の取組を行う。

- ・ミッドナイトボートレースの開催日数及び開催時間の拡大
- ・防風対策の実施

・課題A (2) ファンや地域に愛されるレース場づくり (資料1のP5)

○将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続的に実施するためには、レース場を既存ファンのみならず、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所にし、ファンのすそ野を広げる必要がある。

○そのため、R8年度については、以下の取組を行う。

- ・レース以外でも楽しめるレース場づくり
- ・魅力あるボートレース場の整備
- ・北九州メディアドームの大規模改修
- ・公営競技普及に向けた取組
- ・公営競技の公益性のPR

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

公営競技局は、令和元年度に10年間を計画期間とする「公営競技事業経営戦略」を策定し、「競輪事業及びボートレース事業の収益金で、将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していく」という企業理念のもと、①選ばれるレース場、②健全な運営・信頼されるレース場、③親しまれるレース場の3つの柱を掲げ、事業を推進している。
 今後も、競輪・ボートレース事業のさらなる売上向上を図り、両事業の収益金を北九州市財政(一般会計)へ可能な限り繰り出し、北九州市の「未来づくりと豊かな社会づくり」に貢献する。

2 基本情報

(1)令和8年度局全体当初予算額

2,080億円(競輪事業515億円、ボートレース事業1,565億円)

(2)組織(課名)(R8.4.1付)

総務課、競輪事業課、ボートレース事業課、地域貢献室

(3)所管の政策連携団体

なし

(4)所管の主な公共施設(運営方法:直営、指定管理、その他)

直営	・ 小倉競輪場(北九州メディアドーム) ・ ボートレース若松
----	--------------------------------

3 令和7年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り(総評)
「公営競技事業経営戦略」に基づき、①選ばれるレース場、②健全な運営・信頼されるレース場、③親しまれるレース場の3つの柱を掲げ、取組を推進している。これらの取組により競輪・ボートレースとも好調な売上を維持しており、市財政への貢献(一般会計への繰出し)を順調に行うことができている。
○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果
<ul style="list-style-type: none"> ・ SGボートレースメモリアル、GI競輪祭など魅力あるレースを提供するとともに、ボートレースのミッドナイトレース開催時間拡大に取り組むなど、売上向上に努めた。 ・ 競輪・ボートレース両事業の合計売上は過去最高を更新することができ、令和8年度予算における一般会計への繰出金は、競輪事業からの繰出を再開し4億円、ボートレース事業から71億円、総額75億円とした。
○取組・進捗が十分でなかった項目・内容(理由)・令和8年度に向けた考え
<ul style="list-style-type: none"> ・ 好調な売上を維持しており、引き続き①選ばれるレース場、②健全な運営・信頼されるレース場、③親しまれるレース場の実現に向けた取組を推進していく。

公営競技局 X方針 課題一覧

課題領域 A

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
公営競技	(1)売上向上による市財政への貢献	<ul style="list-style-type: none">・ミッドナイトボートレースの開催日数及び開催時間の拡大・防風対策の実施
公営競技	(2)ファンや地域に愛されるレース場づくり	<ul style="list-style-type: none">・レース以外でも楽しめるレース場づくり・魅力あるボートレース場の整備・北九州メディアドームの大規模改修・公営競技普及に向けた取り組み・公営競技の公益性のPR

【凡例】

○課題領域

- A ・行政サービス現場改善にかかる課題
- B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの
 - ・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4 課題

課題A (1) 売上向上による市財政への貢献【政策分野：公営競技】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:低】 【緊急度:高】

②課題の内容

本市財政（一般会計）への貢献を安定的に継続していくためには、常に売上向上を意識した取組が必要である。

③課題の背景や現状

【競輪事業】

- ・競輪祭の実質固定開催場としての知名度、屋内レース場での安定開催の優位性を活かし、全国からの集客、SNS等を通じた新規ファン獲得などの売上向上策に取り組んでいる。
- ・ミッドナイト競輪を中心に民間ポータルによる売上が大きく伸びており、令和7年度の売上は対前年度13.0%増と好調であった。
- ・令和8年度から本格化する全国競輪場での開催日数平準化による本市開催日数の減少やギャンブル依存症対策として実施されたポイント付与制限の影響を見極めつつ売上確保に向けて取組む。

【ボートレース事業】

- ・令和2年度以降、過去最高水準で舟券の売上額が推移しているが、今後も社会情勢を注視しながら、売上確保に向けた取組が必要である。
- ・ミッドナイトボートレースを令和3年度から実施（全国で3場のみ）し、将来を見据えた売上の拡大に努めている。
- ・令和6年度はこれまでにない強風により、5日間開催中止となったことから、安定的なレース開催のために防風板の設置を急ぐ必要がある。
- ・ミッドナイトレース開催やボートレースパーク化の推進など業界への貢献を通じて、SGレース等のビッグレース開催場として選ばれることが重要である。

④目指す成果 -市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感)-

- ・収益を確保することにより、本市財政に貢献する。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)ミッドナイトボートレースの開催日数及び開催時間の拡大

競合開催が少なく、通常のナイターよりも大きな売上が得られるミッドナイトボートレースについて、レース開催時間の延長及び日数増により、更なる売上増を図る。

【開催時間】 R7 22:18まで ⇒ R8 22:54まで

【開催日数】 R7 31日 ⇒ R8 35日

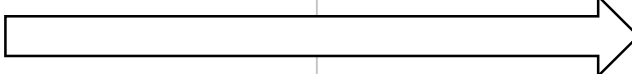
第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・ミッドナイトレースの開催日数及び開催時間拡大(5月~3月)	→	・関係機関、地元との調整(令和9年度の調整)	→

4 課題

課題A (1) 売上向上による市財政への貢献【政策分野：公営競技】

(2)防風対策の実施

ボートレースの安定的なレース開催のため、防風板設置工事に着手し、レース開催に影響がないように日程調整等を行いながら工事を進める。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・防風板設置工事の起工に向けた場内関係者、市技術部局等との協議・調整	・防風板設置工事		

4 課題

課題A (2) ファンや地域に愛されるレース場づくり 【政策分野：公営競技】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:低】

②課題の内容

将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続的に実施するためには、レース場を既存ファンのみならず、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所に、ファンのすそ野を広げる必要がある。

③課題の背景や現状

- ・全国的にレース場の入場者数が伸び悩んでいる中、ファンのすそ野を広げるためにも、入場者の増加は不可欠である。
 - ・令和5年度に実施したアンケートにおいて、特に車券・舟券購入経験の無い人の競輪・ボートレース事業の公益性などに対する認知度が低いため、事業のイメージアップや市民理解の促進などにつながる取組を、積極的に展開する必要がある。
- 【競輪事業】
- ・北九州メディアドームは築27年が経過するなど、施設の老朽化が進行しており、将来的に大規模な改修工事が見込まれ、整備内容の検討や改修にかかる財源の確保などが必要。
- 【ボートレース事業】
- ・ボートレース業界では、中央団体が地域に開かれたボートレース場とするため、レース場に子どもたちが遊べる施設や広場等を整備し、「ボートレースパーク化」を推進している。
 - ・老朽化した西スタンド棟の改修計画により、新たなファン層の拡大を目指す。

④目指す成果 -市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感)-

- ・施設改修等により、既存ファンの満足度を高めるとともに、新たなファンを獲得し、ファンのすそ野を広げる。
- ・市民がこのまちにレース場があって良かったと実感できるレース場となる。

⑤令和8年度の取組内容(四半期間隔)

(1)レース以外でも楽しめるレース場づくり

- ・ボートレース場のパーク化を推進するため、芝生広場や遊具を備えた地域貢献施設(モーヴィわかまつ・グリーンわかまつ)を令和8年4月に開設した。モーヴィ・グリーンへの来場促進と、来場者のレース場への誘引を図る。
- ・子ども食堂や地元向け夏祭り、親子向けイベントの実施など、企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進し、レース目的以外でも誰もが気軽に来場し、楽しめるレース場づくりを進める。

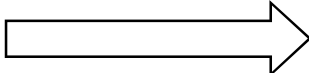
第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
【小倉競輪・メディアドーム】 ・子ども食堂(毎月1回)	・けいりん夏まつり	・競輪祭でのアリーナイベント	
【ボートレース若松】 ・モーヴィ・グリーンで日常的、月次、年次の地域貢献イベント開催 ・イベントの連携等によるレース場への誘引 ・子ども食堂(毎月1回)	・大規模イベント	・ボートレース若松感謝祭	・大規模イベント
	→		
	→		

4 課題

課題A (2) ファンや地域に愛されるレース場づくり【政策分野：公営競技】

(2) 魅力あるボートレース場の整備

- ・西スタンド棟改修等による快適な空間の提供やファンサービスの充実を図ることで、既存ファンの確保と新規ファンの獲得の双方を実現する。

第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
		・旧計算センター解体 工事	

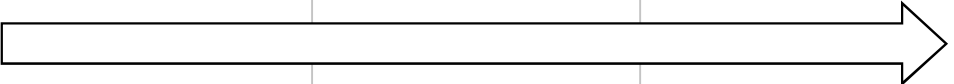
(3) 北九州メディアドームの大規模改修

- ・開設から27年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、改修計画の検討を進めていく必要性から、基本計画策定に向けた各種業務を行う。

第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
・他施設の類似事例等の情報収集	・要求事項、発注方式、指名業者の検討	・発注仕様書案作成、参考見積徴収	・基本計画策定業務の発注準備

(4) 公営競技普及に向けた取組み

- ・自転車競技ファンのすそ野を広げるため、競輪場のバンクを利用して小中学生から大人まで幅広い年齢層を対象としたバンク走行体験会を開催する。
- ・レース場内に設置しているボートレース体験VRアトラクションについて、モーヴィ・グリーン来場者への利用促進を図ることで、子どもたちがボートレースに触れる機会の拡大につなげる。

第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
・選手会との調整 ・自転車、用具購入	バンク走行体験会 (月1回) ・市内中心にPR ・競輪祭観戦		
・ボートレース体験VRアトラクションの運用 ・モーヴィ・グリーン来場者への利用促進			

(5) 公営競技の公益性のPR

- ・市内で開催される祭りやイベント、各種メディア等により戦略的な情報発信を行う。

第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
・祭りやイベントにおける広告掲出 ・SNS、ネットを利用した広告、各種誌面等での情報発信	